

<b>日英教育学会</b> <b>JAPAN-UK EDUCATION FORUM</b> NEWSLETTER No.46 2015/12/22	<b>日英教育学会事務局</b> 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35 京都女子大学発達教育学部 谷川研究室内 TEL 075-531-7283 tanigawa@kyoto-wu.ac.jp
---	--

## ごあいさつ

日英教育学会・代表 上田 学 (千里金蘭大学)

年末を迎え、何かと慌ただしい時候となってまいりました。本年も9月に年次大会を開催することができ、また会員の方々のますますの研鑽状況に接することができ、大いに喜んでおります。まだまだ規模の小さい学会ですが、日本における英国教育に関する専門学会としてその存在意義を強調し、堅実な歩みを続けていくことが求められています。学会紀要が電子化され、多方面から注視されていくことは避けられないようになっていくだけでなく、より積極的に学会の実力とその価値を誇示していくために、会員諸兄姉の一層のご尽力が必要となってくると思われまふ。

次年度の年次大会の輪郭もようやく固まってまいりました。皆様方のますますのご発展を心より祈念いたします。来るべき2016年も我々にとって、大きな意義のある年になりますよう、願っております。どうか、よいお年をお迎えください。

<b>日英教育学会 (Japan-UK Education Forum)</b> 代表 上田 学	
◆事務局	〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35 京都女子大学発達教育学部・谷川至孝研究室 TEL 075-531-7283
◆問い合わせ先	青木研作 k-aoki@tsu.ac.jp (入退会等) (「青木研作」のメールアドレスが変更になっています。ご注意ください。) 谷川至孝 tanigawa@kyoto-wu.ac.jp (会計等) 上田 学 manabu-ueda@cs.kinran.ac.jp
◆郵便振替	00170 2 780381 日英教育学会
◆三井住友銀行	武蔵関支店 総合 6651815
日英教育研究フォーラム事務局長 谷川至孝	

## 日英教育学会 第24回年次大会報告

第24回研究大会・総会が下記のとおり開催されました。

日時：2015年9月4日（金）～9月5日（土）

会場：専修大学生田キャンパス9号館（120年記念館）

今年度の大会は専修大学で開催いたしました。キャンパスの広さと坂の多さにまず驚かされましたが、それにも増して感動的だったことは **会員30名・非会員13名** のご参加をいただいたことです。ご会場をご提供いただき、また公開企画の情宣活動を精力的に行っていただいた広瀬裕子会員に心より感謝申し上げます。また、大会運営にご協力いただきました会員の方々、学生の方々にもあらためて御礼申し上げます。

大会の内容は次のとおりでした。公開企画の詳細につきましては来年8月発行予定の紀要20号をご参照ください。

### 【一日目】 公開企画

大会初日は下記のと通りの基調講演とシンポジウムを行いました。（公開）

10:30-12:30 基調講演

**教育破綻からの再生：失敗自治体の学校教育再生プロジェクト**

－ 権限剥奪・民営化された教育委員会

ロンドン・ハックニー区のラーニング・トラストによる教育改革

アラン・ウッド(Alan Wood)氏（ロンドン・ハックニー区子ども若者政策共同長官・  
全国子ども政策担当局長連合会前会長）

13.30-17:10 シンポジウム

《テーマ》 地方の教育改革とアセスメント

－失敗自治体の教育再生プロジェクトとその評価－

講演者： アラン・ウッド

指定討論者：

木岡一明(名城大学) 「教育評価および教育改善施策の観点から」

山下晃一(神戸大学) 「日本と米国における教育改革との比較の観点から」

司会： 小松郁夫（流通経済大学）

コーディネータ： 広瀬裕子(専修大学)

英語講演資料和訳 吉原美那子(高崎経済大学)

通訳 中島千恵(京都文教大学)・小口功(近畿大学)

1990年代末に破綻自治体と認定されたロンドンの貧困地域ハックニー区で、中央政府肝いりの教育再生プロジェクトが始まった。中央政府はハックニー区の地方教育当局(LEA)を閉鎖し、その全権限を民間組織に移管した。その民間組織「ラーニング・トラスト」を率いて緻密な再生プロジェクトを成功させたのが同トラストのCEであったアラン・ウッド氏である。教育行政に私的セクターが関与することには、賛否を含めて多様な見解がある。ただ、ハックニー区の場合は、この方法によって教育は顕著に改善したとされる。アラン・ウッド氏にはその舞台裏に至るまでその全貌を明らかにしていただいた。

また、シンポジウムには学会外からお二人の研究者をお招きした。木岡氏には我が国の状況との比較から、山下氏には米国の状況との比較から問題を提起していただいた。

## 【二日目】 自由研究発表

大会二日目の午前中は以下のとおりの個人研究発表を行いました。

- |  |
|--|
| (1) 平阪 美穂 (京都聖母女学院短期大学)<br>「スコットランドにおける保護者の学校運営参加への支援」                   |
| (2) モリス・ジェンキンス<br>「日英初等中等教育の発展を不平等の観点から分析」                               |
| (3) 永田 喜裕 (名古屋大学大学院)<br>「英国の教育政策形成における監査委員会の役割」                          |
| (4) 山崎 智子 (福井大学)<br>「1900年代イングランドにおける市民大学設立の意義<br>—「大学」概念の変容という視点からの考察—」 |

今年度も4本のご発表をいただき、充実したプログラムを組むことができました。ジェンキンス会員は長らくブリティッシュ・カウンシルで仕事をなされておられ、本学会の設立当初から多大なご尽力をいただいています。今年度の大会でもお元気なご発表を拝聴できました。

個人研究発表の方々には、大会当日の質疑もふまえ、学会紀要にご投稿いただければと期待しています。

## 総会

自由研究発表後、総会を開催いたしました。

詳細は次ページ以降に掲載します。

## 【総会報告】

9月5日に開かれました総会での報告及び決定事項については次のとおりです。

### 1. 報告事項

- (1) 会員数 (2015年7月31日現在) 107名  
入会者 0名 (2014年8月1日以降2015年7月31日まで)  
退会者 4名  
除籍者 6名 (2015年3月末除籍、2012年度以降会費未納)

#### (2) 2014年度会務報告

① 紀要第18号の発行

② ニュースレターの発行

43号 (2014年7月25日) 44号 (2014年12月26日)

③ 運営委員会

第1回 (2014年9月1日) 於) 常葉大学 議題) 年次大会総会にかかる議案の審議

第2回 (2014年11月9日) 於) 専修大学神田キャンパス

議題 1) 2015年度大会について 2) 紀要編集委員会報告

3) 『英国の教育』(仮称)の出版について

第3回 (2015年3月24日) 於) 専修大学神田キャンパス

議題 1) 2015年度大会について 2) 紀要編集委員会報告

3) 『英国の教育』(仮称)の出版について

4) その他 ・ 名誉会員制度の創設について 他

#### (3) 『英国の教育』編集委員会報告

編集委員会メンバーおよび『英国の教育』構成案、今後のスケジュールについて報告されました。(詳細は別掲の『英国の教育』編集委員会報告をご参照ください)

○編集委員会メンバーは次のとおりです。

高妻紳二郎(福岡大学)、清田夏代(南山大学)、石黒万里子(東京成徳大学)、

宮島健次(西武文理大学)、青木研作(東京成徳大学)

### 2. 審議事項

- (1) 2014年度決算について 別表参照

中島千恵会員、清田夏代会員の会計監査報告とともに承認されました。

- (2) 2015年度の活動計画

以下のとおり承認されました。

① 紀要第19号の発行

② 学会HP上での紀要の公開

(第 19 号から最新号もパスワードなしで閲覧できることとなりました)

- ③ 『英国の教育』(仮称) 発刊 (準備)
- ④ J-STAGE を通じた論文の公開  
(紀要編集委員会報告をご参照ください)
- ⑤ 2016 年度の大会について

大会のテーマは「シティズンシップ教育」とし、京都女子大学を会場に開催することが承認されました。

- ⑥ その他

(3) 2015 年度予算 別表参照

(4) 会則の変更

- ・名誉会員制度の創設

下記のとおり会則を変更し、名誉会員を創設することとしました。

第 4 条 (会員)

イギリス教育の研究に携わる者および関心を持つ者で、本学会の目的に賛同する者をもって会員とする。

会員には一般会員と紀要会員及び名誉会員の別を設ける。

会員のうち3ヶ年の会費納入を怠った者は、本会から除籍される。当該年度の会費未納者にたいしては、紀要が送付されない。

★申し合わせ事項 (2015 年総会)

○運営委員会は満 70 歳以上の会員で、本学会代表を歴任した者あるいは本学会の発展に大きく寄与した者を名誉会員として推薦し、総会の承認を得るものとする。

○名誉会員は会費を負担しない。

○名誉会員は役員~~の~~被選挙権をもたない。

## 学会会費をお支払ください

学会会費が未納の方につきましては、会費請求書を同封いたしました。

また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。

くれぐれもご注意ください。

2014年度決算(案)						
一般会計(収入)						
		予算	決算	決算-予算	備考	
繰越金		991,739	991,739	0		
会費収入		<b>660,000</b>	<b>565,000</b>			
	当該年度		600,000	504,000	-96,000	
	過年度		60,000	60,000	0	
	2015年度以降		0	1,000	1,000	
寄付		0	0	0		
銀行利息		0	46	46		
<b>計</b>		<b>1,651,739</b>	<b>1,556,785</b>	<b>-94,954</b>		
2014年度会費支払者数=86名 6,000円×83+2,000円×3						
一般会計(支出)						
		予算	決算	予算-決算	備考	
会合費		160,000	129,000	31,000		
人件費		60,000	8,000	52,000		
消耗品代		10,000	9,007	993		
HP作業費		0	0	0		
HP維持費		5,000	1,759	3,241		
通信費		20,000	4,072	15,928		
NL編集費		0	0	0		
NL発送費		40,000	19,172	20,828		
NL印刷費		20,000	0	20,000		
紀要18号編集印刷		350,000	328,293	21,707		
紀要発送費		20,000	7,808	12,192		
研究費		100,000	0	100,000		
14年度大会開催費		30,000	30,000	0		
14年度ゲスト招聘費		300,000	60,432	239,568	非学会員招聘	
教育関連学会連絡協議会費		10,105	10,216	-111		
学会積立金		400,000	400,000	0		
予備費		126,634	4,046	122,588		
<b>計</b>		<b>1,651,739</b>	<b>1,011,805</b>	<b>639,934</b>		
繰越金		1,556,785 - 1,011,805 = 544,980				
特別会計						
		予算	決算	差し引き	備考	
収入	繰越金	55,750	55,750	0		
	学会積立金	400,000	400,000	0		
<b>計</b>		<b>455,750</b>	<b>455,750</b>	<b>0</b>		
支出	選挙費	30,000	29,866	134		
	出版準備費	0	0	0		
<b>計</b>		<b>30,000</b>	<b>29,866</b>	<b>134</b>		
繰越金		455,750 - 29,866 = 425,884				

2015年度予算(案)							
<b>一般会計</b>							
<b>収入</b>							
			2014年度予算	2014年度決算	決算-予算	2015年度予算	備考
	繰越金		991,739	991,739	0	544,980	
	会費収入	当該年度	600,000	504,000	-96,000	600,000	6,000×100
		過年度	60,000	60,000	0	60,000	6,000×10
		翌年度以降	0	1,000	1,000	0	
	その他		0	46	46	0	寄付等
	<b>計</b>		1,651,739	1,556,785	-94,954	1,204,980	
<b>支出</b>							
			2014年度予算	2014年度決算	予算-決算	2015年度予算	備考
1	会合費		160,000	129,000	31,000	160,000	
2	人件費		60,000	8,000	52,000	30,000	
3	消耗品代		10,000	9,007	993	10,000	
4	HP作業費		0	0	0	0	
5	HP維持費		5,000	1,759	3,241	5,000	
6	通信費		20,000	4,072	15,928	20,000	
7	NL編集費		0	0	0	0	
8	NL発送費		40,000	19,172	20,828	30,000	
9	NL印刷費		20,000	0	20,000	10,000	
10	紀要19号編集印刷		350,000	328,293	21,707	350,000	
11	紀要発送費		20,000	7,808	12,192	20,000	メール便廃止のため
12	研究費		100,000	0	100,000	70,000	
13	15年度大会開催費		30,000	30,000	0	50,000	
14	15年度ゲスト招聘費		300,000	60,432	239,568	300,000	
15	教育関連学会連絡協議会費		10,105	10,216	-111	10,216	
16	学会積立金		400,000	400,000	0	100,000	『英国の教育』編集費
17	予備費		126,634	4,046	122,588	39,764	
	<b>計</b>		1,651,739	1,011,805	639,934	1,204,980	
<b>特別会計</b>							
<b>収入</b>							
	繰越金		55,750	55,750	0	425,884	
	学会積立金		400,000	400,000	0	100,000	
	<b>計</b>		455,750	455,750	0	525,884	
<b>支出</b>							
	選挙費		30,000	29,866	134	0	
	出版準備費		0	0	0	100,000	編集費
	<b>計</b>		30,000	29,866	134	100,000	

## 2015 年度運営委員会報告

(1) 2015 年 9 月 4 日、専修大学生田キャンパスにて、第 1 回運営委員会が行われ、年次大会総会にかかる議案を審議しました。

(2) 2015 年 12 月 6 日、専修大学神田キャンパスにて、第 2 回運営委員会を開催しました。主な議案は次のとおりです。

### 1. 次年度大会について

谷川委員より提案がなされ、審議の結果、下記のように決定しました。詳細については別掲「2016 年度年次大会について」をご参照ください。

○大会日程 2016 年 8 月 27 日（土）～28 日（日）

○会場 京都女子大学

### 2. 紀要 20 号について

沖委員より提案がなされ、審議の結果、原案通り了承されました。別掲「紀要編集委員会報告」をご参照ください。

### 3. 紀要の電子化について

宮島委員より本学会紀要の J-STAGE への登載が決定したとの報告がありました。

それに伴い、クロスリファレンスにかかわる書式の統一が必要となり、おって検討することとなりました。

詳細については、別掲「紀要編集委員会報告」をご参照ください。

### 4. 『英国の教育』編集委員会報告

編集委員会にて『英国の教育』の構成及び執筆者が決定し、すでに執筆者の承諾も得ていることが報告されました。出版は 2016 年 12 月末の予定です。

詳細は別掲『英国の教育』編集委員会報告をご参照ください。

### 5. 名誉会員の推薦について



## 第25回（2016年度）年次大会について

以下の予定で開催します。

日程： 2016年8月27日(土)、28日(日)

場所： 京都女子大学

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

### 【大会第1日目】

#### 公開シンポジウム

- ・英国招聘ゲスト： Kevin I Matthews 氏

Head of Citizenship, Human Rights and Genocide Education

The Thomas Hardy School Dorchester Dorset

- ・シンポジスト：

片山 勝茂 会員（東京大学）

蓮見 二郎 氏（九州大学）

プロフィール（九州大学 HP より転載）

蓮見二郎

○研究キーワード：

政治理論、教育哲学、シティズンシップ教育、言語教育政策

○自己紹介：

群馬県桐生市生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。英国ケンブリッジ大学へ留学し、2008年にPhDを授与されました。その後、関西大学人間活動理論研究センター、慶應義塾大学外国語教育研究センターを経て、2010年10月に本学に着任致しました。現代の規範的政治理論を学問的な基礎として、シティズンシップ教育や言語教育政策などの具体的な政策問題をフィールドとして考えることに興味を持っています。また近頃は、民主主義社会における政治学のあるべき姿について考えています。

- ・コーディネータ 清田 夏代 会員（南山大学）

- ・趣旨

ここ数年来「シティズンシップ教育」は日英教育学会の大会テーマとして幾度か候補に挙がってきました。今回、わが国の道德教育の「特別な教科」化や選挙権年齢の引き下げ、それにかかわる主権者教育や公民教育の見直し等の今日的状況の中で、タイムリーなテーマとして「シティズンシップ教育」を取り上げることといたしました。

内容的には、英国を含むヨーロッパが直面している教育における移民統合の課題等を視野に入れていますが、ただ英国の「シティズンシップ教育」の紹介にとどまらず、主権者教育等わが国の教育の実際にも一定の示唆を与えるようなシンポジウムにしたいと考えています。

ゲストの Matthews 氏は中等学校の現役の先生です。英国の「シティズンシップ教育」が実際にどのような内容でどのように行われているのかをお伺いしたいと考えています。日本側からは新進気鋭の「シティズンシップ教育」研究者をお二人お招きしました。教育学プロパーと政治学プロパーの方です。コーディネートを清田夏代会員にお願いしています。どのようなダイナミックな議論を創り出していただけるのか、今から楽しみにしています。

## 【大会第 2 日目】

### 個人研究発表

#### 個人研究発表の募集

2016年8月27日(土)、28日(日)、京都女子大学で開催される日英教育学会 25 回年次大会での

個人研究発表を募集しています。

学会事務局 (tanigawa@kyoto-wu.ac.jp 谷川) までご連絡ください。

近年、春・秋の観光シーズンに限らず、京都の宿泊が抑えづらくなっています。

早めにご予約いただきますよう、お願いします。

(谷川至孝)

## 紀要編集委員会からのご報告とお願い

### ①紀要の編集について

次号の紀要は第 20 号という節目を迎えます。特段の企画は用意いたしません、会員の皆様に積極的な投稿を呼びかけたいと思います。優れた投稿論文を掲載するだけではなく、現時点では十分とはいえない場合であっても可能性が感じられる投稿については、査読者との応答を通じて研究ノートとして掲載する可能性も模索するというのが現在の紀要編集委員会の基本的な考え方です。研究論文は学会活動の活性化を進めるうえで重要なものですので、特に若手の会員からの投稿を歓迎いたします。

なお、第 20 号掲載に向けての**投稿締め切りは 2016 年 4 月末日**となっております。ご検討ください。また、自著紹介や書評も積極的にご紹介したいと考えております。過去 2 年程度の間に報告書や書籍等で英国教育に関する成果を発表された方は、紀要編集委員会までお知らせください。

(沖 清豪)

### 紀要の原稿を募集しています

学会紀要『日英教育研究フォーラム』20 号（2016 年 8 月発行予定）の自由投稿論文を募集しています。

締め切りは 2016 年 4 月末日です。

投稿規定は <http://www.juef.sakura.ne.jp/newsletter.html> をご覧ください。

### ②紀要の電子化について

すでに本学会サイト (<http://www.juef.sakura.ne.jp>) でもお知らせしている通り、紀要第 19 号から全文を学会サイト上で PDF として公開しています。これに加え、本学会の紀要が、先日、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する J-STAGE に正式に登載されることとなりました。J-STAGE は CiNii や Google、SCOPUS など内外の主要な検索エンジン、学術サービスと連携していますので、本学会の研究成果をこれまで以上に世に

知らしめることができます。

ただし、実際の登載は今しばらく時間がかかるということです。というのも、現在非常に多くの学協会が J-STAGE への登載を希望しており、それらをさばくのにもどうしても時間がかかるからだと思います。加えて実際の登載に際しては、いろいろな問題もあります。ただ PDF へのリンクを張り付けるだけではなく、別途にキーワード、抄録、引用文献等を入力するなど、細かい項目を入力する手間がかかります。場合によっては、論文投稿規定の変更も考えなくてはならないかもしれません。この点につきましては、紀要第 20 号以降、ご投稿いただいた執筆者の皆様にご協力をいただくとお思います。詳細が分かり次第ご連絡しますが、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

(宮島 健次)

## 英国の教育編集委員会報告

既報の通り、本学会では出版事業に取り組むこととなりました。先日、編集委員会が開催され、構成および執筆担当を決定させていただきました。また多くの会員の方に執筆をご快諾いただき、実に本学会の 3 分の 1 もの会員の方々にご参加いただくことができました。まさに学会の総力をあげての事業と言っても過言ではありません。改めて御礼申し上げます。

以下、目次と今後の予定についてお知らせします。執筆者の皆様、〆切は 3 月末となっております。どうかよろしく願いいたします。

(『英国の教育』編集委員会)

### <今後の予定>

2016 年 3 月末原稿〆切

8 月末入稿

**12 月末刊行予定**

## <英国の教育・目次>

### はじめに

- ・ 日英教育学会の紹介、編集の方針
- ・ 英国の基本情報

### 序章

なぜ英国に着目するのか～英国の教育を知ることの意義と日本の教育の現状と問題

- ・ 刊行の趣旨

### 第1章

英国の教育を日本はどうとらえてきたか

- ・ 関連学会における英国教育研究のこれまで

### 第2章

英国の社会的・文化的背景で知っておきたいこと～教育の背景にある英国社会と文化

- ・ 政治的背景
- ・ 文化的背景

### 第3章

英国教育の歴史～今日の教育はどのように形成されてきたか、その歩みと特徴

- ・ 大学の歴史・特色
- ・ 初等中等教育の歴史・特色
- ・ 女性と教育の歴史・特色

### 第4章

英国の学校と教員～複雑な学校制度をひもとく

- ・ 英国の学校のしくみ・制度
- ・ LA 管理の公営学校
- ・ 新しいタイプの公営学校
- ・ 独立学校
- ・ 学校運営のしくみ—学校理事会
- ・ 教員養成

### 第5章

英国の大学～大学のしくみと大学生

- ・ 大学のしくみ・制度
- ・ 入試制度
- ・ 卒後・就職（若年労働市場）

### 第6章

英国の子どもたち・大人たち

- ・ 保育の姿
- ・ 就学前教育
- ・ 成人教育
- ・ 職業教育

### 第7章

英国教育のさまざまな顔～先進的な取組紹介

- ・ マイノリティ、多文化教育
- ・ 特別な教育ニーズのある子どもへの教育
- ・ シチズンシップ教育
- ・ 性教育
- ・ PSHE

### 第8章

英国教育の改革最前線～めまぐるしい変化と安定性の両立

- ・ 教育改革の最近の流れと新動向

### 終章

- ・ 英国教育に学べること

### おわりに

- ・ 課題と展望

### トピック

- ・ テロと暴動
- ・ いじめ
- ・ 体罰
- ・ 文学教育
- ・ 音楽教育
- ・ 教員採用・待遇
- ・ メリトクラシー・ペアレントクラシー
- ・ スクール・インスペクション
- ・ 教育省と教育大臣
- ・ 教育裁判
- ・ 国際バカロレア
- ・ ティーチング・スクール
- ・ 大学の奨学金と学費

## <編集後記>

アメリカ大統領選挙でトランプ氏の勢いが止まりません。他の共和党候補を圧倒する勢いです。暴言を重ねれば重ねるほど支持率が高まるとのこと。ヨーロッパでもフランスの州（地域圏）議会選挙（比例代表2回投票制）の第1回投票で「反移民」を掲げる国民戦線（FN）が得票率首位となりました。ただ、第2回投票で国民戦線が第一党になることはありませんでした。英国でも首相は議会でトランプ氏を批判しています。その他にも、スコットランドのロバート・ゴードン大学が、2010年にトランプ氏に授与した名誉経営学博士号の剥奪を発表したこと、スコットランド自治政府も2006年にトランプ氏を「ビジネス大使」に任命していましたが、その解任を発表したこと、等がニュースで伝えられています。

欧米の民主主義の成熟度が試されているように思います。それは「知性」と「反知性」との闘いでもあります。そして、その闘争を支えるのが教育です。それではわが国の民主主義と教育はどうでしょう。旧教育基本法がその前文で「われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである」とたからかにかうたっていたことを思い出します。

来年度のシンポジウムのテーマ「シティズンシップ教育」を設定するにあたって、こうしたことを思いめぐらしています。

さて、今年の夏の大会は、英国からのゲストをお招きすることができ、多くの方々にお集まりいただき、大盛況の大会でした。来年度の大会は久しぶりに京都で開催させていただきます。すでに英国からのゲストにもご了承いただいています。現役の中等学校の先生です。一方、日本側のシンポジストはお二方とも英国シティズンシップ教育研究の第一人者です。しかも教育学と政治学というプロパールの異なる研究者です。アカデミックな面からだけでなく実践の面からも核心にせまる質の高い議論が展開されることを今から心待ちにしています。

また、近年の懸案でありました『英国の教育』の出版も、いよいよ具体化してきました。1年後の刊行予定です。こちらのほうもたいへん楽しみです。このように学会が活性化していることは間違いがないのですが、事務局としてはそれなりに心配事もあります。本学会も創設から四半世紀を迎えようとしています。それはそれで喜ばしいことなのですが、一方で学会創設以来のメンバーが退職される年齢を迎えられ、一人一人と本会を去られていくことは寂しいものです。

悲喜こもごもの年末です。良いお年をお迎えください。

(谷川至孝)